

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	阿久井 千亜紀
論文担当者	主査 古江 秀昌
	副査 木村 卓
	副査 木島 貴志
学位論文名	<p><b>Associations between insomnia and central sensitization in cancer survivors undergoing opioid therapy for chronic cancer pain. A STROBE-compliant prospective cohort study</b></p> <p>(慢性癌性疼痛に対するオピオイド療法を受けているがん生存者における不眠症と中枢感作との関連:STROBE 準拠の前向きコホート研究)</p>
論文審査の結果の要旨	
<p>慢性がん性疼痛を有するがんサバイバーにおいて不眠症は深刻な懸念事項であり、不眠症と中枢感作等の関連が注目されている。しかしながら、その関連は十分に調べられておらず、関連性を特定することは、がんサバイバーの不眠症に対するより良い治療に貢献する上で極めて重要な課題である。学位申請者は、オピオイド療法を受けているがんサバイバーの不眠症との関連性を特定する為、がんサバイバーの痛みに関与する症状や特徴と不眠症との関連を前向きに調査した。</p> <p>2019年9月から2020年8月までに登録された、外来で化学療法を連続して受け、オピオイド治療3ヶ月以上の慢性がん性疼痛を有する患者を対象とした。不眠症は、アテネ不眠症尺度(AIS)を用い、中枢感作は中央感作インベントリ(CSI)、疼痛強度は安静時および労作時の数値評価尺度(NR)、神経因性疼痛はDouleur Neuropathique 4(DN4)を用いて評価した。また、精神障害や統計マニュアル(DSM-V)における物質使用障害の診断基準からオピオイド使用障害を診断した。加えて、疼痛壊滅的尺度(PCS)、うつ病の自己評価アンケート(SRQ-D)、状態特性不安尺度(STAI-1)も評価した。</p> <p>上記評価での欠落したデータのない患者20名は、年齢63±12歳、男/女6人/14人、乳がん(2人)、肺がん(6人)、悪性中皮腫(7人)、骨髄腫(1人)、卵巣がん(1人)、膵臓がん(1人)、直腸がん(1人)であった。不眠症は45%、疼痛に対する中枢感作は10%でみられた。線形回帰分析からAISとCSIスコアの間に関連が確認された。</p> <p>本研究は、AISとCSIスコアの相関から、慢性がん性疼痛に対してオピオイド療法を受けているがんサバイバーの不眠症と中枢感作に関連が存在する高い可能性を示す、重要で、且つ貴重な成果であり、学位論文に十分に値すると評価する。</p>	